

Weekly Bulletin 2014-2015



RI会長
ゲイリー・C.K. ホァン
(黄其光)



静岡東ロータリークラブ

会長/伊藤洋一郎 幹事/相原雄治

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
伊藤洋一郎



第 2715 回例会

平成 27 年 5 月 14 日 天候 晴

《司 会》 相原 雄治君

《合 唱》 「我らの生業」

《BGM》 「ラテン ミュージック」

《来 賓》 源 純夏様

《ピジター》 なし

《本日のお祝い》

お誕生日

結婚記念日

該当なし。

該当なし。

《会長挨拶要旨》

『オリンピックの感動』



本日はシドニー・オリンピックの競泳で活躍されていた源 純夏さんをお招きしています。

1. そこで本日は、私が初めて感じたオリンピックの水泳の感動についてお話をしたいと思います。

私の記憶にある、初めてのオリンピックの水泳はローマオリンピック

の山中毅選手の 400m 自由形 銀メダルの試合です。

1960 年のロンドンの出来事です。私が 12 歳で小学校 6 年生の頃の事です。今から 55 年も前の事です。

2. 当時リアルタイムのテレビ放映などなく、そのため深夜にラジオ短波の放送を聴きました。短波なので電波の具合で時々、電波の波が消えかかる放送を必死で聴きました。

子どもなのに深夜の 2 時頃まで起きていました。どうしてあんなに夢中で聴いたのか不思議な想いです。あのときの感動を今も覚えています。

オーストラリアのマレー・ローズとの死闘でした。山中は惜しくも銀メダルでした。あのとき私は、深夜にラジオに向かって「頑張れ、山中!」「山中、頑張れ!」と叫んでいました。山中が世界で闘っていると興奮しました。子ども心に日本ではなく、世界を感じた初めての瞬間だった

のかもしれない。

3. 今回改めて、源 純夏選手のシドニー・オリンピックのメドレーリレーの泳ぎを YouTube で観ました。最終泳者として、ドイツの選手とのラストの死闘にまた感動しました。

人は力一杯とか、全力を尽くすとか良く言いますが、目標に向かって頑張るって努力していれば、神が降りてきて力を与えてくれることがあるんだと思いました。

4. 子どもの頃 知ったオリンピックの感動は、やはり子どもにも希望を与え、夢を育ててくれるように思います。こんな時代ですが、私たちは日々の暮らしの中で、夢や希望や感動をいつも感じていたいと改めて思いました。

《来賓卓話》

『水泳が教えてくれたこと』

アスリート・シドニー五輪水泳メドレー銅メダリスト 源 純夏様



初めまして、源 純夏です。

このたびはご縁がありまして昨日、四国は徳島から高速バスと新幹線乗り継いでやってまいりました。どうぞよろしくお願ひします。私は長く競泳をしておりますがこの静岡は思い出の地でございます。

小学 6 年生の夏、今はなくなりました浜名湖近くのプールで初めて学生別の全国大会で優勝をし、中学 2 年生のときには静岡県立水泳場で行われた日本選手権で 50m 自由形、当時の日本記録で優勝し日本一になりました。

その中学 2 年で優勝したことが大きなきっかけとなり、高校 2 年生でアトランタオリンピック、大学 3 年生でシドニーオリンピックに日本代表として出場しました。シドニーの映像をご覧いただきたいと思います。

この間に銅メダルを各席でご覧になって頂ければと思います。

シドニーは 2000 年でしたので、ちょうど 15 年前になります。

競泳にも泳ぎ方や練習方法など流行り廃りもありますし10年ひと昔といいますが15年も経つとこのころから様々な変化があります。

わかりやすい例を2つ挙げてみると、まず水着です。

社会的にも話題になりました高速水着 レーザーレーサーの話はみなさんご存知かと思いますが、私たちはそれより前にもっと大きな壁を乗り越えてきました。

そのターニングポイントが実はこのシドニーの時でした。

それまで日本代表選手が着る水着は既製品、スポーツ用品店で売っているものと同じ SML の展開から選んでいました。しかも日本代表で国際大会に出場するときにはこの大会はこのメーカー、この大会はこのメーカーという風に決められていたのです。

競泳選手にとって水着は勝負の場に向かう時に唯一身に着けられるモノ、戦う自分を支えてくれる大切なギアですが自由に選ばせませんでした。

どの世代も抱えていたその悩みを声を上げたのが私たち世代で、シドニーに向けて動き出す時に選手たちが声をあげ各メーカーの協力や水泳連盟のご理解などもあり、自分が好きな水着を身に着けて勝負することができるようになったのです。

手前味噌ではありますが、現状のその礎を築いた世代の一人として競泳界に貢献できたことのひとつだと思っています。

2つ目の変化はコース台です。

シドニーの時は傾斜角が 7.5 度の平らな板でしたが 2008 年～2010 年の移行期間を経て傾斜が 10 度に、さらにスタート台の後方に陸上のスターティングブロックに似た傾斜 30 度の踏切ブロックが取り付けられました。うまく使うことができればこのスタート台の変化だけでもタイム 0.1～0.2 秒は伸びます。たったそれだけ？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、競泳はタイムがすべて、その差が 0.01 秒でも勝者と敗者を分けるシビアな競技なのです。

この 15 年だけをみてもこれだけ大きな変化がある中、実はつい最近まで変わらないことがありました。先にご紹介したように、私は静岡県立水泳場で中学 2 年生のときに当時の日本記録を樹立したのですが、それから以降も自分の記録を更新し続け、最後に更新したのは大学 4 年生の 4 月、シドニーの翌年の 2001 年でした。それから今年の 4 月に行われた日本選手権までの 14 年間ずっと破られず日本最古の日本記録として私の名前がそこにありました。

記録が破られ悔しくないのかと聞かれれば、正直ぜんぜん悔しくありません。今の自分はその記録で泳げないです。ただ、そこに自分の名前があることに慣れすぎていたので寂しさは感じます。

さて、ここまでが過去のお話でした。

大学を卒業するまで競泳選手として 0.01 秒を削る勝負の世界でオリンピックに二度出場し、メダルまで獲得した私が今何をしているか、というお話を最後にさせていただきます。

私は水泳に出会って、水の世界を知って様々な経験をすることができました。時には悔しいしんどいつらいことも山ほどあったけど、それでも水泳が与えてくれた喜びはかけがえのない財産です。

しかし周りを見渡してみると、夏に限らず一年中、水の事故で命を落とす人が絶えません。水とかかわることで命を失い悲しい思いをする人たちがいるのです。

交通事故とは違い、水の事故は自分の注意で防げる可能性があります。水の危険から自分の身を守る方法を知ることによって「水は危ないから近寄ってはいけない」ではなく、子供から大人まで水と親しむ楽しさや自由になれる水の世界を知って欲しいと思ひ出会ったのがライフセービングでした。

私が立ち上げた徳島ライフセービングクラブは「徳島の水辺をもっと楽しく もっと安全に」をスローガンに海水浴場のパトロール、各種水辺イベントのガード、それから心肺蘇生と AED の使い方の普及、この 3 つを主な柱に活動をしています。

ライフセービングとは水難救助・レスキューが主な活動と思われるがちですが実は違います。私たちの目的は水の事故をゼロにすることにあるので、事故を起こさない、未然防止のために活動をしています。川や海やプールに楽しみに来ている人たちが、家に帰っても楽しかったね!と笑顔でいられることが私たちの喜びです。

水の事故を起こさないようにするため、水と正しく楽しく親しむためにも基礎泳力というのは欠かせないので、生涯スポーツとして水泳を楽しむ子供から大人までの指導も今の仕事になります。

徳島ライフセービングクラブは財源がないボランティア活動なので寄付で成り立っています。

ライフセービング活動に興味を持って頂けた方は、ご協力をお願い致します。

メダルも手許に戻って来ましたので、終わりにしたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

《スマイル報告》

- 曾根 正弘 君 シドニー五輪で女子メドレー初のメダル(銅)を獲得したチームのアンカをつとめた源純夏さんを卓話者にお迎えできたことを喜びとして。
- 伊藤洋一郎君 源さんのおかげで 55 年前のローマオリンピックを思い出しました。改めて頑張ろうと思いました。
- 川口 尚宜 君 先日、葦山反射炉が明治日本の産業革命遺産として世界遺産登録勸告を受けたとのニュースが報じられうれしく思いました。幕末の静岡県人の独立心に敬意を表しスマイル致します。
- 相原 雄治 君 オリンピックメダリスト源さんと幹事任期が 2 ヶ月を切ったのでスマイルします。
- 高田 雅司 君 スマイルメンバーに求められ、スマイルします。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
5/14	50(49)	36	13	-	-	-
5/7	50(49)	44	5	-	-	-
4/23	51(50)	44	6	5	1	98.00%